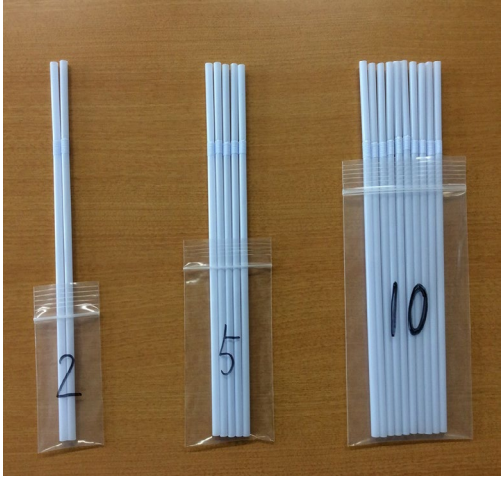


数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えることの指導 ～具体物で数のまとまりをつくる教材を使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2 2 2 3
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部6学年（2名）</li> <li>100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したりすることができる。</li> <li>数字を見て「大きい順に並べる」などの大小比較については、20までの数であってもつまずきが見られる。</li> </ul>		
単元(題材)名	『まとまりで数えよう』		
学習指導要領の内容	算数科／小学部3段階 A数と計算 ア 100までの整数の表し方に関わる数学的活動 (ア) ㊦㊧、(イ) ㊦		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	<p>数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えることができる。【Aア(ア)㊦】</p> <p>数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすることができる。【Aア(ア)㊧】</p> <p><small>* 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。</small></p>	<p>数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。【Aア(イ)㊦】</p>	<p>数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする。【小学部3段階A目標ウ】</p>
単元(題材)の計画	<p>総時数8時間</p> <p>1 せんぶでいくつとれたかな。(ペットボトルキャップ掴み)……………1時間</p> <p>2 まとまりを作ってみよう、見つけてみよう。……………2時間</p> <p>3 いくつのまとまりがどこできるかな。……………3時間</p> <p>4 2ずつや5ずつで数えて、10のまとまりといくつで数えよう。……………2時間</p>		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱に入っているペットボトルキャップを両手で掴み、数を数える学習では、「1、2、3……」と一つずつ数える様子があったが、教師が2とびの数え方を見せると、教師の数え方をまねて「2、4、6……」と2とびで数えることができた。</li> <li>2ずつや5ずつ、10ずつのまとまりは、ストローを用いて毎時間提示した。それぞれサイズの異なる透明の袋(小、中、大)に入れることで「まとまり」の意味を意識したり、数量の感覚を身に付けたりすることができるようにした。</li> <li>具体物を2ずつや5ずつで数えて10になったら、そのまとまりを10の箱に入れて、残りの具体物を数えることで、「10こと〇こ。合わせて□こです。」のような文章でホワイトボードに記入し、発表した。2とびや5とびの数え方にも慣れてきて、10まで正確に数えることができるようになり、「10といくつ」で数量を捉えることができた。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>ストローと袋を使った 2・5・10のまとまりをつくる教材</p> </div>		